

川俣の廃校でベニザケ養殖

いちいち 実証事業の規模拡大

県内でスーパーマーケットを展開している「いちいち」（本社・福島市）はベニザケの陸上養殖実証事業について、福島市の拠点に加えて川俣町の廃校でも実証を行い、規模を拡大する。病気に弱く成長が遅いため養殖が難しいとされるベニザケをICT（情報通信技術）で管理し、早ければ2026（令和8）年に世界初となる事業化を目指す。

廃校は旧富田小で、校舎1階部分と体育館など計約2千平方メートルを活用する。6月に改修工事を始め、来年2月ごろに稼働する見通

し。魚体の成長を促進させる「好適環境水」と呼ばれる人工海水を循環させ、1万5千匹程度を養殖する。水質センサーや

カメラで監視し、最適な成育環境を整備する。同社は昨年1月からNTT東日本や岡山理科大と連携し、いち

本社敷地内で実証試験に取り組んでいる。これまでの成果に加え、川俣町での試験結果も検証する。

企業立地と施設利活用に関する基本協定締結式が27日、町役場で行われた。伊藤信弘社長と藤原一二町長が協定書を交わした。伊藤社長は「川俣発のブランドとして世界に発信していきたい」、藤原町長は「地域振興の核となることを期待している」と述べた。

基本協定調印式



協定書を交わす伊藤社長（右）と藤原町長